

P1-A-0094

回復期病棟運動器疾患患者における運動能力と栄養状態の関連 入院時栄養状態と運動機能改善度に着目して

橋本 重倫, 牧野 博幸, 櫻井 瑞紀, 小林 和樹, 可児 利明

医療法人社団 健育会 竹川病院 リハビリテーション部

key words 栄養管理・運動器・回復期病棟

【目的】

運動能力の改善には運動療法等による介入と共に栄養状態が重要と考えられるが、回復期病棟入院時から栄養障害を認める患者を多く経験する。そこで今回、①運動器疾患患者の属性を調査、②退院時 Functional Independence Measure の運動項目(以下 M-FIM)と栄養状態の関係性を検討、③ M-FIM 改善度と栄養状態の関係性を検討することとした。

【方法】

平成 23 年 10 月～平成 25 年 3 月に A 病院回復期病棟を退院した運動器疾患患者でデータに不備がなかった 186 名(平均年齢 80.1 ± 11.1 歳)を対象とした。調査項目は年齢、入院時血清アルブミン値(以下 Alb 値)、入院時・退院時 M-FIM とした。検討方法は、①各項目を平均値 $\pm$ 標準偏差で集計、②各項目に対して、入院時 Alb 値をもとに標準群(3.6g/dl 以上)・低栄養群(3.5 g/dl 以下)の 2 群に群分けし、Pearson の χ^2 検定、Mann-Whitney の U 検定を実施、③ 2 群それぞれの M-FIM 改善度を退院時 M-FIM - 入院時 M-FIM (以下 M-FIM 利得)として算出し、Mann-Whitney の U 検定を実施した。統計的解析には R2.8.1 を使用し、有意水準は 5% 未満とした。

【結果と考察】

①入院時 Alb 値 3.5 ± 0.4 、入院時 M-FIM 65.4 ± 15.3 、退院時 M-FIM 77.8 ± 12.3 ②標準群 83 名(平均値 3.8 ± 0.2 g/dl)、低栄養群 103 名(平均値 3.2 ± 0.2 g/dl)で、全てに有意差がみられた。③ M-FIM 利得は標準群 10.8 ± 8.2 、低栄養群 13.7 ± 10.0 で有意差がみられた。入院時 Alb 値が 3.6g/dl 未満の患者が 56.3% となった。退院時 M-FIM は入院時 Alb 値標準群が有意に高値を示したことから入院時の栄養状態は退院時 M-FIM に影響を与えることが示唆された。また、M-FIM 利得は標準群よりも低栄養群で有意に高値を示した。これは、低栄養も伴い M-FIM の低下をきたしていた患者に対して栄養管理に伴う運動療法の提供により M-FIM 利得が増大したと考えられる。ただし栄養の改善度がどのように影響したのかは示されていないため、さらなる検証が必要であると考えられる。